Japanese Journal of Ichthyology
Vol. XIV, nos. 1/3
August 20, 1966

魚　類　学　雑　誌
第14巻　第1/3号
1966年8月20日発行

我が国から未記録のスズメダイ科魚類の1種 *Teixeirichthys mossambicus* について

山　川　　武
(高知高等学校生物教室)

On the damsel-fish, *Teixeirichthys mossambicus* SMITH, new to the fish fauna of Japan

Takeshi YAMAKAWA
(Kochi Senior High School)

SMITH (1953) は東アフリカのモザンビーク海峡から得たスズメダイ科 *Pomacentridae* の1新種を *Teixeirichthys mossambicus* SMITH として記載し，これを Genotype として *Teixeirichthys* 属をつくったがその後この種についての報告はないように思われる。

筆者は1962年高知市中央市場で本種を1尾得たので，その形態について報告する。

本稿を草するにあたり終始有益なご助言をいただき，かつ本稿をご校閲下さった高知大学名誉教授，蒲原稔治博士及び文献や研究室の使用などいろいろな便宜を計って下さった高知大学岡村収助手に深謝する。

スジスズメダイ属 (新称) *Teixeirichthys* SMITH, 1953

Teixeirichthys SMITH, Memòrias do Museu Dr. Alvaro de Castro, no. 2, de 1953, pp. 13-14; type *T. mossambicus* SMITH.

体は長楕円形で側扁する。口は小さく，両顎に多少側扁した1列の歯がある。これらのうち側歯は小さく，のみ状の縁辺をもち，前方の数個は大きく尖り先端の形はほぼ円錐形。口蓋骨には歯がない。吻の各側に1鼻孔がある。鰓耙は短かい。鰓は $3^1/_2$ 個。擬鰓がある。背鰭は13棘，臀鰭には2棘の鋭い棘があり両鰭の基底は広い。胸鰭と腹鰭は中庸。尾鰭は深く二叉する。眼下骨，前鰓蓋骨，間鰓蓋骨の縁辺は鋸歯状。主鰓蓋骨の縁辺は円滑で2本の大きく扁平な棘をもつ。鱗は櫛鱗で，1縦列の鱗は40枚より多い。側線は不完全で背鰭軟条部の後端近くに終る。頭部はほとんど鱗を被るが鼻口部は無鱗。背鰭の前方の鱗は両眼間隔部の中央にまで達する。背鰭及び臀鰭の軟条部基底に鱗がある。

本属は *Daya* 属 Daya BLEEKER, 1877 に類似するが次の点で区別される。

1. 眼下骨後縁に鋸歯がある。(*Daya* 属では円滑。)
2. 1縦列の鱗は44～45個。側線鱗は30～34個。(*Daya* 属では1縦列の鱗は30～34個。側線鱗は19個) (SMITH, 1953 ら)

スジスズメダイ（新称） *Teixeirichthys mossambicus* SMITH (Fig. 1)

Teixeirichthys mossambicus SMITH, 1953, Memórias do Museu Dr. Álvaro de Castro, no. 2, pp. 14-16, fig. 1, Mozambique Channel.

背鰭は13棘12軟条；臀鰭は2棘13軟条；胸鰭は17軟条；腹鰭は1棘5軟条；有孔側線鱗数30個；1縦列の鱗数44個；側線の上方に6個，下方に12個の鱗がある；左側の第1鰓弓の鰓耙は10+14=24本。体長は頭長の3.5倍；体高の2.4倍；頭長は眼径の2.6倍；吻長の3.7倍；両眼間隔の2.6倍；頭部眼後部の2.6倍；尾柄高の1.8倍である。

体は長楕円形で側扁する。口は小さく斜位，主上顎後端は瞳孔の前縁下に達する。各顎に1列の歯があり，ほぼ円錐形で，側方のものは小さく，前方に進むにつれて次第に大きくなる。上顎の先端近くに8個，下顎には6個の大きくて，基部がほぼ円錐形でその先端は側扁して截形を呈する歯がある。口蓋骨に歯がない。眼下骨はきわめて狭く，後縁は円滑でない。前鰓蓋骨の後縁は多数の鋸歯をもち，下縁は円滑。間鰓蓋骨の後部下縁は数個の中庸の鋸歯があり，下鰓蓋骨下縁には十数個の同様な鋸歯がある。主鰓蓋骨縁辺は円滑で2本の長い扁平な棘をもつ。両眼間隔は凸出し，鱗から前方吻端にかけて多数の密接した小孔をもちやや海綿状。楕円形の1対の鼻孔は吻端と眼の前縁のほぼ中間にある。鰓耙は細長く，内縁に1列の小棘が密生する。最長の隅角部の鰓耙の長さはほぼ瞳孔の直径と等しい。

体は強い櫛鱗で被われ，頭部は両眼間隔の前半，吻，眼前骨と両顎を除いて鱗がある。背鰭前方の鱗は次第に小さくなり約17枚で，両眼間隔の中央に終る。有孔側線鱗は左右とも30個で，背部外廓に平行して走り第8背鰭軟条下に終る。側線鱗の管について SMITH (1953, p. 16) は The tubes open behind by a numerous of pores と述べているが，筆者の標本では単一形で分枝はみられなかった。尾鰭の前半部及び胸鰭の基部1/3には小鱗があり，背鰭と臀鰭の軟条部の基部に数列の小鱗がある。

背鰭はほぼ鰓蓋の後縁上方に始まり棘は中庸で尖り第1棘は瞳孔の直径とほぼ等しく，最長

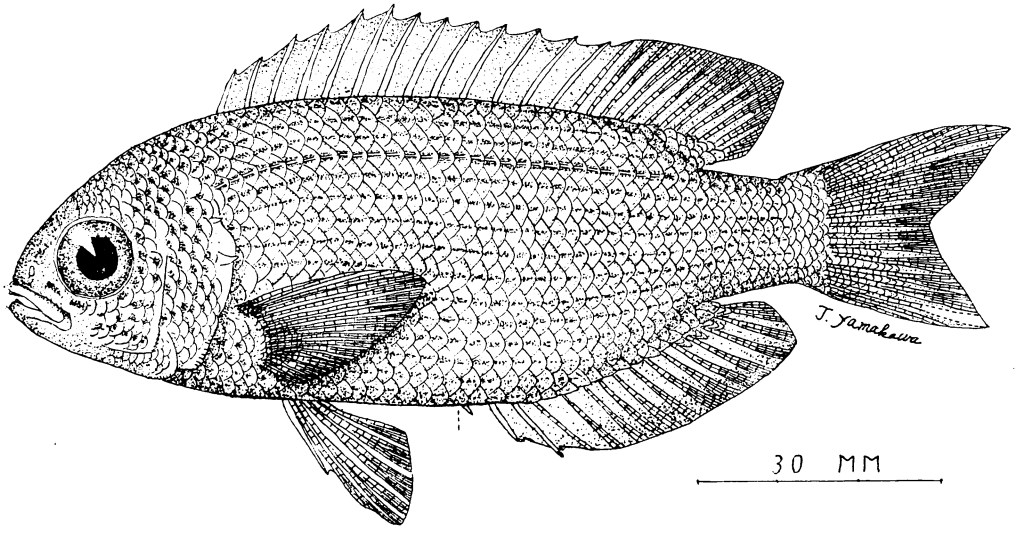

Fig. 1. *Teixierichthys mossambicus* SMITH.

の第6棘は眼径の1.2倍。軟条部は棘部より高く最長の第11軟条は眼径の1.5倍で後方にたおすと尾鰭基底に達する。臀鰭は背鰭第11棘の下方に始まり，第1棘は眼径の0.7倍，第2棘は眼径とほぼ等しい。軟条部は背鰭のそれと同様で，後方にたおすと尾鰭基底にほとんど達する。臀鰭の軟条部基底は背鰭のそれより著るしく広く1.5倍。胸鰭は背鰭起部のわずか後方に始まり，その長さは頭長の0.7倍で肛門の上方に達しない。腹鰭は胸鰭下部基底よりやや後方に始まり，最長の第2軟条は肛門にほとんど達する。肛門は臀鰭のやや前方にあり，その直後に生殖突起がある。尾鰭後縁は深い凹形をなし，両葉は尖り，上葉は下葉よりやや長い。

ホルマリン液浸標本の色は一様に淡黄褐色で，頭部には2列の小暗色点が頬から眼の下にあり，同様な暗点が主鰓蓋骨や眼の後方に散在する。体側の大部分の鱗は1暗色点をもち，これらは前後連絡して約15列の狭い暗色縦帯をつくる。瞳孔より著るしく小さい明瞭な黒色斑が胸鰭腋部にある。背鰭軟条部と臀鰭はやや暗色で他の鰭は淡色。背鰭棘部は不明瞭な暗色で縁取られる。

この記載及び図は筆者が1962年4月20日に高知市中央市場の機船底引網の漁獲物中より見出した全長117 mm (Cat. No. Yamanaka 1558) の1個体による。この標本は他の漁獲物の種類から考えて比較的浅い所で漁獲されたものと推定された。この標本は現在，高知高等学校生物教室に保存してある。

本種は東アフリカのモザンビーク海峡からのみ報告されている。

SMITH は本種の近縁種として *Pomacentrus obtusirostris* GÜNTER, 1862 と *Pomacentrus polylepis* REGAN, 1908 をあげ，これら3種が同一種であるかもしれないことを示唆している。筆者はこの3種間の関係を知ろうとつとめたが *P. obtusirostris* の簡単な記載 (GÜNTER, 1862) しか見ることができなかった。この記載によると，*Pomacentrus obtusirostris* と *Teixeirichthys mossambicus* とは類似しているが，同一種と断定するには記載があまりにも簡単であるように思われた。また，*P. polylepis* については文献を見ることができなかったので，ここでは一応この3種を別種として取り扱うことにした。

参 考 文 献

BEAUFORT, L. F. de, 1940: The fishes of the Indo-Australian Archipelago, viii, pp. 348–349.
GÜNTER, A., 1862: Catalogue of the Fishes in the British Museum, vol. iv, pp. 24–25.
SMITH, J. L. B., 1953: Fishes taken in the Mozambique Channel by Mussoline P. Fajardo, Memórias do Museu Dr. Alvaro de Castro, no. 2, pp. 13–16, fig. 1.
———, 1953: The Sea Fishes of Southern Africa, p. 520, fig. 758a.

Résumé

In 1953, SMITH described a new species of Pomacentridae, *Teixeirichthys mossambicus*, collected from the Mozambique Channel, East Africa. The author wishes to report here the occurence of this species and its external characters, because this species is very rare and not recorded from waters of Japan. The external characters of the present specimen are as follows:

D. XIII, 12; A. II, 13; tubes of lateral line 30; scales in longitudinal series 44; 6 scales above lateral line, 12 lower; 10+14 slender gill-rakers on first arch. Head 3.5

in standard length; depth 2.4; eye 2.6 in head; snout 3.7; interorbital 2.6; depth of caudal peduncle 1.8. Body elongate oval, compressed. Mouth small; maxillary reaching to below front edge of pupil. A single series of more or less compressed teeth in each jaw, small laterally, gradually enlarge frontally. Palatines edentate. Suborbitals very narrow, not smooth; hind edge of preopercle serrate, the lower edge smooth; some moderate denticles on hinder edge of interopercle and about 20 denticles on lower hinder margin of subopercle; opercle not serrate but with two large flat spines. Interorbital slightly convex; snout spongy, with numerous close-set small pores. Scales strongly ctenoid; head with scaly except front half of interorbital; snout, preorbital and chin, which are naked. Lateral line runs in a gently curve almost parallel with dorsal profile and ends below base of eighth dorsal ray. Caudal rather deeply forked, the lobes pointed and the upper one a trifle longer than the lower. Color in formalin light yellowish brown; sides of head with several rows of dark spots; most scales on body with a narrow dark bars, forming about 15 narrow dark bands along side of body. Axil of pectoral with a conspicuous dark spot.

Described and figured from a single specimen, 117 mm in length, from Kochi Central Fish Market, April 20, 1962.